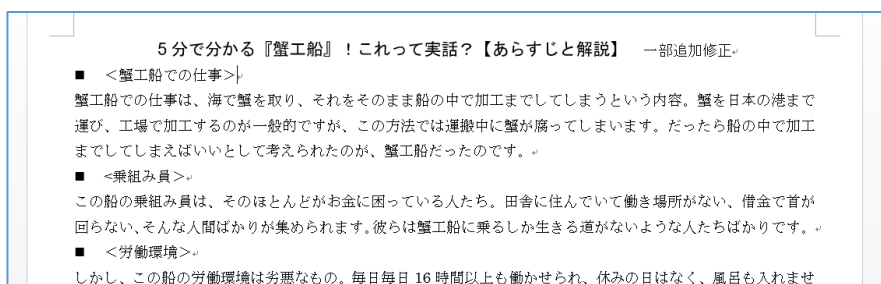


デスクトップ→パソコン講座→教材から原稿をダウンロードする。
または、つなが〜るパソコン教室のホームページからダウンロードする。

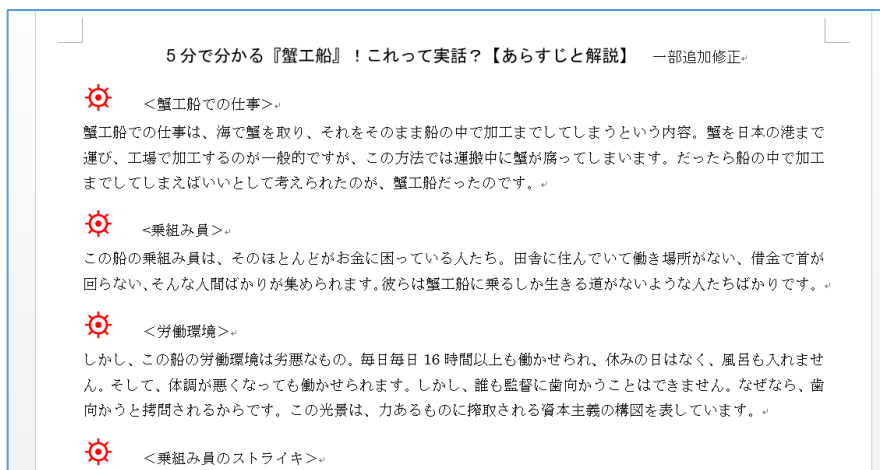
1. 行頭文字を付ける基本

- 1) 一つ目の見出し<蟹工船での仕事>にカーソルを置き、ホームタブの「箇条書き」から■を選ぶと先頭に行頭文字■が表示される。→ ■ <蟹工船での仕事>
- 2) 次の見出しにカーソルを置き、☰をクリックすると見出しに■が表示される。同様に、最後の見出し<作者の思想>まで■の行頭文字を付ける。
※このとき複数の見出しを同時に選択して☰をクリックしてもよい。




2. 行頭の文字を好みの記号に変更する。{ ■ → ⚙ } (文字コード: 2 6 EF)

- 1) いずれかの行頭文字を一つ選択して、☰ 箇条書きメニューから **新しい行頭文字の定義(D)** を選ぶ
- 2) ダイアログボックスの「記号」を選択すると種々の記号が現れるので、ここでは、フォント「Segoe UI Symbol」の種類「その他の記号」にある灯台 [⚙] を選択し OK とする。
ひとつ前の画面 **新しい行頭文字の定義(D)** に戻るなのでそこで **文字書式(E)...** をクリックすると「フォント」タブが開くので「サイズ」→ 2 2と「色」→ 赤を選択し OK とする。
- 3) ひとつ前の画面 **新しい行頭文字の定義(D)** に戻るなので OK を押すと、行頭の■がすべて ⚙ に代わる。



ワード文章の箇条書き記号をカスタマイズする

3. 行頭文字と文字列のズレを修正する。

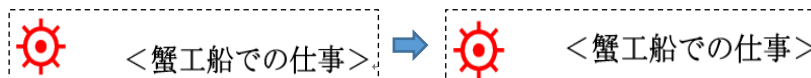
- 1) 一つ目の行頭文字列の左側空欄をクリックし行全体を選択する。同様に他の行頭文字列左空欄を「Ctrl」キーを押しながら行全体を選択し、全ての行頭文字列を選択。
- 2) 「ホーム」タブの「段落」 をクリックし、画面の「体裁」を選択。

インデントと行間隔 改ページと改行 **体裁**

文字の配置で、「中央揃え」でOKとする。

文字の配置(A): **中央揃え**


※ 行頭文字と文字列が上下の中央で揃いバランスがとれる。



4. 文章全体の体裁を整える。

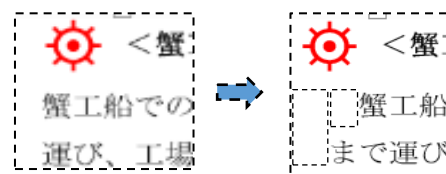
- 1) 各見出しのフォントを「MS ゴシック」に変更。

{ <蟹工船での仕事> → <蟹工船での仕事> }

- 2) 各見出し下の文章を選択し「段落」 → 「インデントと行間隔」のインデント内容を右記のようにする。➡





※ 右のようにインデントが1字増え最初の行が1文字の字下げとなる。



-----時間があれば以下も-----

5. 行頭文字にイラストなどのを利用する。(例)

- 1) いずれかの行頭文字を一つ選択して、 箇条書きメニューから **新しい行頭文字の定義(D)** を選ぶ
- 2) ダイアログボックスの「」を選択すると新しい画面が開くので「ファイルから」を選択し保存場所（画像のある場所）を指定し、行頭に付ける画像ファイル選んで「挿入」ボタンをクリックする。

以上

ワード文章の箇条書き記号をカスタマイズする

5分で分かる『蟹工船』！これって実話？【あらすじと解説】 一部追加修正

<蟹工船での仕事>

蟹工船での仕事は、海で蟹を取り、それをそのまま船の中で加工までしてしまうという内容。蟹を日本の港まで運び、工場で加工するのが一般的ですが、この方法では運搬中に蟹が腐ってしまいます。だったら船の中で加工までしてしまえばいいとして考えられたのが、蟹工船だったので。

<乗組み員>

この船の乗組み員は、そのほとんどがお金に困っている人たち。田舎に住んでいて働き場所がない、借金で首が回らない、そんな人間ばかりが集められます。彼らは蟹工船に乗るしか生きる道がないような人たちばかりです。

<労働環境>

しかし、この船の労働環境は劣悪なもの。毎日毎日16時間以上も働かせられ、休みの日はなく、風呂も入れません。そして、体調が悪くなっても働かせられます。しかし、誰も監督に訴向かうことはできません。なぜなら、訴向かうと拷問されるからです。この光景は、力あるものに搾取される資本主義の構図を表しています。

<乗組み員のストライキ>

上にいる人はぼろ儲けで、底辺にいる人たちは命を削ってまでも働かせられ……。働けども、働けども、儲かったお金が労働者に還元されることはないのです。そんなある時ついに、この労働に耐えられなくなった乗組み員がストライキを起こすことに。

労働者たちはストライキを起こしますが、海軍によって中心人物たちが捕まってしまう。しかし彼らは諦めず、自分たちを守ってくれるはずの存在である軍の実態を知ってもなお立ち上がり、ストライキをもう1度起こすことに決めるのです。彼らは経営陣に、そしてこの国に勝つことができるのでしょうか。

<資本家の考えの否定>

利益さえあれば、労働者をまるでゴミのように扱ってもよいとしている資本家の考えを、真つ向から否定している本作。現代では、この考え方は多くの人に受け入れられる考え方でしょうが、当時の日本での流れ、そして結末を書くことは、相当な勇気がいることだったでしょう。

<労働者の態度>

そして、読者も多量二の考え方に賛成はすれど、その感想を公にできない世の中だったと考えられます。この大胆な発信が現在までも残されているということは、それだけ日本の労働者は鬱憤が溜まっていたのでしよう。

<作者の思想>

作者の思想が詰め込まれている『蟹工船』が出版されたことによって、当時の日本には救われた労働者が、たくさん居たはず。結果的に拷問によって虐殺されるという最期を迎えた多量二ですが、彼の考え方は現代にも引き継がれ、確実にかつてのような圧力は少なくなっているのではないのでしょうか。

働くとはなんなのかをあらためて考えさせられる本作。せひみなさんも、小説でも、漫画でも、映画でも、小林多量二が命をかけて残した思想に触れてみてはいかがでしょうか。そして、あらためて働くことについて考えてみてはいかがでしょうか。心からおすすめできる作品です。

引用先 URL : https://honoreire.jp/articles/shelf_story/6540 HOME : <https://honoreire.jp/> ホンシニルジニ



5分で分かる『蟹工船』！これって実話？【あらすじと解説】 一部追加修正

<蟹工船での仕事>

蟹工船での仕事は、海で蟹を取り、それをそのまま船の中で加工までしてしまうという内容。蟹を日本の港まで運び、工場で加工するのが一般的ですが、この方法では運搬中に蟹が腐ってしまいます。だったら船の中で加工までしてしまえばいいとして考えられたのが、蟹工船だったので。

<乗組み員>

この船の乗組み員は、そのほとんどがお金に困っている人たち。田舎に住んでいて働き場所がない、借金で首が回らない、そんな人間ばかりが集められます。彼らは蟹工船に乗るしか生きる道がないような人たちばかりです。

<労働環境>

しかし、この船の労働環境は劣悪なもの。毎日毎日16時間以上も働かせられ、休みの日はなく、風呂も入れません。そして、体調が悪くなっても働かせられます。しかし、誰も監督に訴向かうことはできません。なぜなら、訴向かうと拷問されるからです。この光景は、力あるものに搾取される資本主義の構図を表しています。

<乗組み員のストライキ>

上にいる人はぼろ儲けで、底辺にいる人たちは命を削ってまでも働かせられ……。働けども、働けども、儲かったお金が労働者に還元されることはないのです。そんなある時ついに、この労働に耐えられなくなった乗組み員がストライキを起こすことに。

労働者たちはストライキを起こしますが、海軍によって中心人物たちが捕まってしまう。しかし彼らは諦めず、自分たちを守ってくれるはずの存在である軍の実態を知ってもなお立ち上がり、ストライキをもう1度起こすことに決めるのです。彼らは経営陣に、そしてこの国に勝つことができるのでしょうか。

<資本家の考えの否定>

利益さえあれば、労働者をまるでゴミのように扱ってもよいとしている資本家の考えを、真つ向から否定している本作。現代では、この考え方は多くの人に受け入れられる考え方でしょうが、当時の日本での流れ、そして結末を書くことは、相当な勇気がいることだったでしょう。

<労働者の態度>

そして、読者も多量二の考え方に賛成はすれど、その感想を公にできない世の中だったと考えられます。この大胆な発信が現在までも残されているということは、それだけ日本の労働者は鬱憤が溜まっていたのでしよう。

<作者の思想>

作者の思想が詰め込まれている『蟹工船』が出版されたことによって、当時の日本には救われた労働者が、たくさん居たはず。結果的に拷問によって虐殺されるという最期を迎えた多量二ですが、彼の考え方は現代にも引き継がれ、確実にかつてのような圧力は少なくなっているのではないのでしょうか。

働くとはなんなのかをあらためて考えさせられる本作。せひみなさんも、小説でも、漫画でも、映画でも、小林多量二が命をかけて残した思想に触れてみてはいかがでしょうか。そして、あらためて働くことについて考えてみてはいかがでしょうか。心からおすすめできる作品です。

引用先 URL : https://honoreire.jp/articles/shelf_story/6540 HOME : <https://honoreire.jp/> ホンシニルジニ